

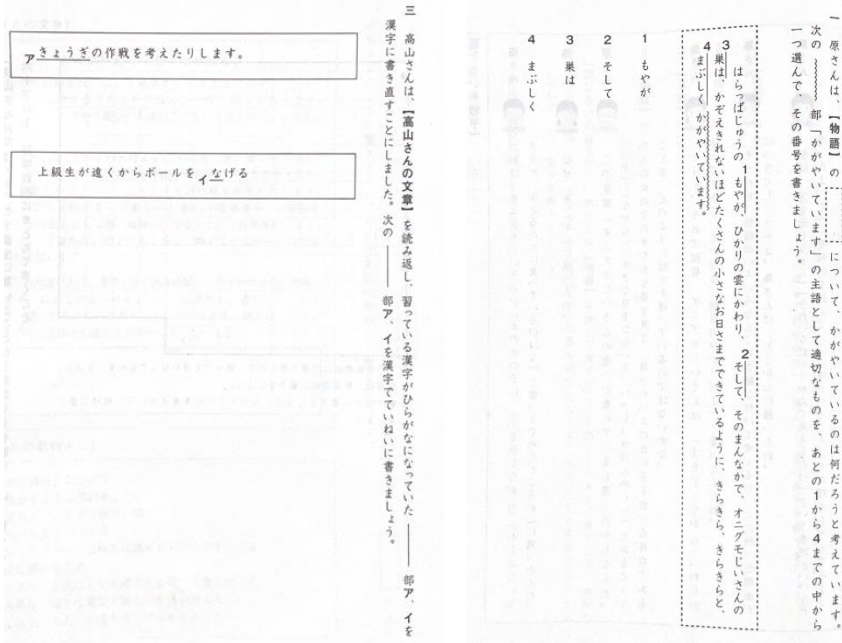
国語

○漢字や文法を正しく使うことに苦手さがある

漢字や文法の知識を問う問題の正答率が、県や国と比較して低い傾向にあります。「競」や「投」など、第四学年以前に学習した漢字が書けないことが多かったです。文法については、文中における主語と述語の関係の読み取りに苦手さが見られました。

【学校では】

学校生活における読書の機会を増やし、文法の自然な定着を目指します。今年度は、より低い学年から日常的に読書に親しむ習慣を作るため、低学年の朝読書の時間を増やしています。高学年でも委員会のキャンペーンを通して多くの本に触れ、活字に親しめるような環境づくりに取り組んでいます。今後も、国語の教材に関連した本を紹介したり、読書の時間を多めにとったりするなどの取り組みをし



ていきます。

【家庭では】

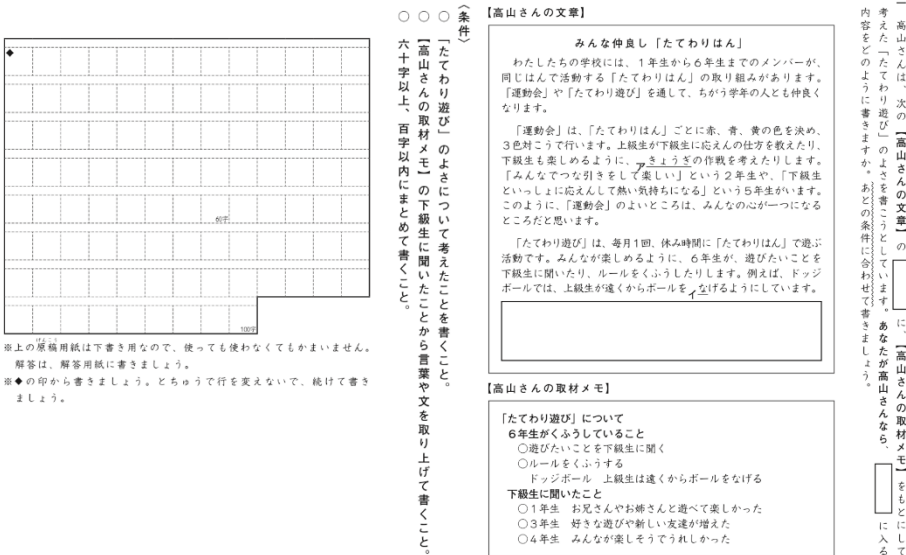
読書は学校だけでなく、家庭でも楽しんで続けられるものかと思います。活字に親しむことで、叙述を結び付ける力、発言から推測する力、文の関係を読み取る力が育ちます。また、読書の重要性に気付くためには、自分を支える言葉を本から見つけたり、今までになかった考えを見つけたりすることが大切です。そういった本と出会い、自分の愛読書を見つけるために、様々なジャンルの本に触れる機会を作っていただくとよいかと思います。

○自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書くことに苦手さがある

記述問題、選択問題の両方で、相手に伝わりやすくするために表現や話し方を工夫することに苦手さが見られました。記述問題では、事実と意見、感想を区別して記述することが難しかったかと思います。目的や意図に応じて情報を分け、自分の考えが伝わるように書くことに課題が見られました。

【学校では】

「書くこと」の学習において、書く目的や伝える相手を明確にしたり、友達と助言し合いながら文章を推敲したりする時間



時間を設けます。また、授業の導入では、教師が図表やグラフを用いたモデルとなる文章を提示し、何をどのように書いていくか見通しを持たせる指導を意図的に行います。書く目的をより強く意識することで、主体的に書き方や構成を工夫して書こうとする意識を持たせます。

【家庭では】

日常会話の中で、興味のあることや学校であったことなどを順序立てて話す機会を増やしていただくとよいかと思います。日記や感想文も、いきなり書き始めるのではなく、書く相手や目的、そう思った根拠を明確にしてから書いた方が整った文章を書くことができます。書くことだけでなく、話をしたり、質問をしたりする中で自身の体験を整理し、落とし込むことで、伝える力も育ちます。ご家庭での日常的な会話から、子どもたちの伝える力を伸ばします。

算数

「数と計算」の学習について

問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ問題で、足し算と引き算を間違える児童が半数近くいました。問題文は「Aさんは折り紙を72枚持っています。Aさんの持っている折り紙はBさんの持っている折り紙より28枚少ないです。Bさんが持っている折り紙の枚数を求める式を選びましょう。」であり、正解は $72+28$ ですが、「少ない」という言葉から、 $72-28$ を選んでしまったと考えられます。このことから、図などを用いて正確に問題把握をする必要があると考えられます。

【学校では】

文章問題の中の「足し算言葉」や「引き算言葉」から安易に立式をするのではなく、数量関係を、言葉、図、式で表し、図で表した関係を式にしたり、式に表した関係を図で表したり、図や式の意味を言葉で説明したり、多方面からの理解ができるようにしていきたいと思います。

【家庭では】

場面を把握する力を身に着けるために、家庭学習の際には、計算問題だけでなく文章題に積極的に取り組んだり、読書をして感想を聞いたりすることをしてみてはいかがでしょうか。また、新聞の切り抜きから内容を要約する練習をすることも、算数とは直接関係ないように見えますが、有効かと思えます。

「図形」の学習について

円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ問題で、約半数の児童が適切な解答を選ぶことができませんでした。この問題から、図形を想像して問題を解決する力が十分ではなかったことが考えられます。

思考する段階で、頭の中で立体である円柱を展開し平面に表すことができれば、「直径×円周率」の公式を活用し、解答することができます。また、1マス5cmの図から、求めた円周の長さと同じ選択肢を選ぶ力も求められています。

数年前と違って、デジタル教科書を使って教科書の絵や写真、動画を見ながらの授業が多くなってきており、実際に自分で図形をかいたり、作ったりという操作活動が減ってきています。このことから、図形の構成要素やそれぞれの要素の関係に着目して大きさや形を捉えていくことに苦手があると考えられます。



図1

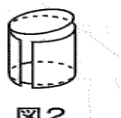
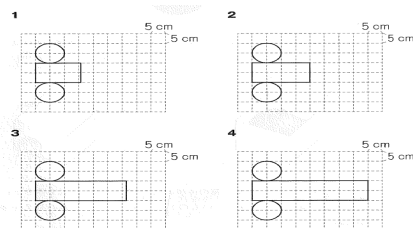


図2



【学校では】

今後も図形の学習では、具体物を使って問題に取り組む場を積極的に取り入れていきます。実際にテープを折ったり、折り紙を使って図形を作ったりするような活動を通して、図形を教科書の図や言葉で理解するだけでなく、図形の性質を経験として理解できるよう、体験的な授業づくりを行います。

また目的の図形をつくるために、どのような操作をすればよいか、図形の意味や性質を基に、見通しを立てて考え、自分の考えをもったうえで実際に図形をつくって確かめることを意識した授業をしていきたいと思えます。

【家庭では】

家庭学習で図形の問題に取り組む際に、実際にその図形をかきながら問題に取り組んだり、紙に書いて切り取って考えたりして、具体的な図形が思い描けるようにしていただけるとよいと思えます。

また、日常生活の物と学習を結びつけることも大変有効です。段ボール箱をくずすことが展開であることや、お買い物でのセールの日割引とつなげる等、日常の生活とつなげるとよいと思えます。

児童質問紙

①学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うことは勉強の役に立つと感じている児童が多い

昨年度同様、タブレットなどのICT機器を活用することで、「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」「友達と協力しながら学習をすすめることができる」と回答している児童の割合が90%以上という結果でした。日常の中で、インターネットを活用して調べ学習をしたり、授業で学んだことをプレゼンテーションにしたりするなど、タブレットのメリットを生かして文房具として使用している児童が多いことが一因だと考えます。しかし、インターネットで何でも簡単に知ることができるという点においては、便利ではありますが、調べたことをまとめる深める活動や実際に見るなどの経験から児童自身が答えを発見し、想像する活動も大切な学習だと考えます。そこで、今後も、タブレットと紙の両方で学ぶメリットを生かした学習を行っていきます。

【紙学習のメリット・デメリット】

- 解く過程が残り、間違いに気づきやすい
- 学びの全体像がつかみやすい
- 手を動かして書くことで、学習内容をインプットしやすい
- ▲音声や動画でないと理解できないものがある
- ▲学びに取り組むハードルが高い

【タブレット学習のメリット・デメリット】

- 動画や音声で理解が深まりやすい
- 学びのきっかけづくりになる
- 児童の学習状況に応じて学習できる
- ▲勉強したつもりになってしまい、知識が定着していないことがある
- ▲自分に必要な学習を見つける力がつきにくい

【タブレットと紙の両方で学ぶメリットを生かした学習】

タブレット学習で知りたいことを効率的に調べ、紙学習で学習の定着や記録、進捗の確認を行う。

②課題解決に向けて、自分で考え、意欲的に授業に取り組もうとする児童が多い

本校では、毎年3年生の児童を対象とした、「学びのアンケート」を年2回実施しています。目的は、授業の流れや指導方法が実態に合っているか、改善する点はないかを見つめ今後の指導に生かすためです。7月に実施したアンケート結果では、「課題を意識して授業に参加しているか」「自分で考えをもって、進んで書いたり話したりしているか」などの質問に対して、80%以上の児童が「あてはまる」「ややあてはまる」と前向きな回答をしていることが分かりました。また、全国学力状況調査のアンケートにおいても、「問題を解決するために、どの方法がよいか、自分で考えて取り組める」「自分の考えを分かりやすく伝えるために、様々な工夫をしている」などの質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童の割合が、岐阜県や全国の結果と比べて高いことが分かりました。

【①と②の結果を踏まえて、学校では】

本校では、今年度より、「学ぶ楽しさがあり、考えを表現する力を高める授業～学ぶ楽しさを高める工夫に焦点を当てて～」を研究テーマとし、授業改善を進めています。学ぶ楽しさを実感させるための工夫として、授業で学習することについて見通しをもたせる方法や、学習課題を自分で解決できるようにするために、教師の働きかけや、授業に向かうための心構えや準備物の用意など、学年や実態に応じて様々な授業実践を行っています。実際に行っている例として、①や算数の分析結果から分かるように、具体物を用いたほうがより理解が深まる場合もあることもわかり、身につけさせたい内容に応じて、具体物を使用するのか、タブレットを使用するのかを考えて、授業を組み立てています。今後も、タブレット学習と紙学習（具体物など）のよさを考慮し、楽しく学びが深まる授業を目指していきます。

【①と②の結果を踏まえて、ご家庭では】

「学びのアンケート」結果から、家庭でタブレットを用いた家庭学習を行っているとは回答した児童の割合が低いことが分かりました。学校でも、学校だよりや学びの教育通信、ノート展を通して、タブレット学習の取り組み例や家庭学習の交流などを行っておりますが、各ご家庭においても、家庭学習について、最善の方法をご検討下さい。

夢に向かって 伸びゆく中央小



令和6年8月30日発行

「分かる・楽しい」みんなの授業を目指して

平素より、本校の教育活動へのご理解とご協力ありがとうございます。

本校では、3年生以上の児童を対象に、「学びのアンケート」を年2回実施しています。目的は、授業の流れや指導方法が実態に合っているか、改善する点はないか見つけ、今後の指導に生かすためです。

1. 学びのアンケート結果（昨年度と今年度の比較）

【4：満足 3：やや満足 2：やや不満足 1：不満足】		R5.12月				R6.7月			
アンケート内容		4	3	2	1	4	3	2	1
1	あなたは、やる気をもって授業に取り組んでいますか。	43.4 └──┘ 91.6	48.2 └──┘ 8.4	6.4 └──┘ 8.4	2 └──┘ 8.4	50.3 └──┘ 92.4	42.1 └──┘ 92.4	6.3 └──┘ 7.6	1.3 └──┘ 7.6
2	あなたは、課題を意識して授業に取り組んでいますか。	38.6 └──┘ 82.6	44 └──┘ 17.4	15.1 └──┘ 17.4	2.3 └──┘ 17.4	41.8 └──┘ 89.5	47.7 └──┘ 89.5	8.7 └──┘ 10.5	1.8 └──┘ 10.5
3	あなたは、授業中に自分で考えをもち、進んで書いたり話したりしていますか。	34.5 └──┘ 79.7	45.2 └──┘ 20.3	17.1 └──┘ 20.3	3.2 └──┘ 20.3	41.5 └──┘ 83.0	41.5 └──┘ 83.0	13.9 └──┘ 17.0	3.1 └──┘ 17.0
4	あなたは、授業で仲間と交流することは楽しいですか。	54.6 └──┘ 80.9	26.3 └──┘ 19.1	13.2 └──┘ 19.1	5.9 └──┘ 19.1	60.8 └──┘ 88.9	28.1 └──┘ 88.9	7.7 └──┘ 11.1	3.4 └──┘ 11.1
5	あなたは、授業で学んだことをまとめることができていますか。	29.9 └──┘ 82.9	53.0 └──┘ 17.1	13.7 └──┘ 17.1	3.4 └──┘ 17.1	42.6 └──┘ 81.3	38.7 └──┘ 81.3	15.8 └──┘ 18.7	2.9 └──┘ 18.7
6	あなたは、学んだことを振り返ったり、他の問題に生かしたりしていますか。	27.2 └──┘ 73.5	46.3 └──┘ 26.5	21.5 └──┘ 26.5	5 └──┘ 26.5	38.4 └──┘ 78.7	40.3 └──┘ 78.7	17.9 └──┘ 21.3	3.4 └──┘ 21.3
7	家庭学習では、自分で見通しをもって計画することができましたか。	40.9 └──┘ 79.7	38.8 └──┘ 20.3	15.7 └──┘ 20.3	4.6 └──┘ 20.3	46.1 └──┘ 80.3	34.2 └──┘ 80.3	15.5 └──┘ 19.7	4.2 └──┘ 19.7
8	自分で立てた計画通りに取り組むことができましたか。	33.6 └──┘ 80.3	46.6 └──┘ 19.7	15.8 └──┘ 19.7	3.9 └──┘ 19.7	39.5 └──┘ 81.1	41.6 └──┘ 81.1	13.7 └──┘ 18.9	5.2 └──┘ 18.9
9	テスト見直し表を使うことで、家庭でテストの見直しをする時間が増えたと思いますか。	27.9 └──┘ 66.7	38.8 └──┘ 33.3	23.7 └──┘ 33.3	9.6 └──┘ 33.3	31.6 └──┘ 70.7	39.0 └──┘ 70.7	20.6 └──┘ 29.3	8.7 └──┘ 29.3
10	岐阜ウェブラーニングやロイロノート、電子図書館を活用した家庭学習に取り組みましたか。(R6 電子図書館の文言追加)	32.9 └──┘ 63.2	30.2 └──┘ 36.8	19.4 └──┘ 36.8	17.4 └──┘ 36.8	35.3 └──┘ 60.6	25.3 └──┘ 60.6	17.1 └──┘ 39.4	22.3 └──┘ 39.4

※肯定的な回答（「4」と「3」の合計）の高低を比較しました。
上がっているものは、赤色、下がっているものは、青色にしてあります。

今年度より、「分かる・楽しい、みんなの授業」の流れを掲示し、どの学年の児童も授業の見直しをもって参加できるように指導をしています。また、授業で学んだことを家庭学習でも生かせるように今後も指導に力を入れてまいりますので、家庭学習の見届け・励ましを引き続きよろしく願いいたします。